

科目名 Course Name	コミュニケーション技術Ⅱ Communication skills Ⅱ				ナンバリング No.	J2-006	
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	大熊 信成						
連絡方法	C-Learning で対応。または社会福祉棟 3F 研究室。オフィスアワーは授業担当時間以外。						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程必修)						
関連 DP	DP2,DP3,DP4						
授業の概要と 到達目標	<p>「コミュニケーション技術Ⅱ」では、実習における利用者とのコミュニケーションを振り返り、自己のコミュニケーションの傾向について分析・評価する。また、コミュニケーション障害について理解したうえで、事例から利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際を学ぶ。さらに、介護におけるチームのコミュニケーションに必要な技術について学習する。</p> <p>①基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードを分析・評価し、自己の傾向および改善点に気づくことができるようにする。</p> <p>②コミュニケーション障害の原因と特徴について説明できるようにする。</p> <p>③障害の特性に応じたコミュニケーションの留意点について、説明できるようにする。</p> <p>④介護におけるチームのコミュニケーションの必要性について、説明できるようにする。</p> <p>⑤介護における記録と報告の要点を列挙できるようにする。</p>						
授業の方法	基礎実習Ⅰで作成したプロセスレコードをもとに、自己のコミュニケーションについて分析・評価をし、自己の傾向について考察を深める。コミュニケーション障害の事例をもとに、実習での体験もふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションについて考える授業とする。						
学習成果	L01						
	L02	①プロセスレコードの分析・評価を通し、自己のコミュニケーション技術を向上することができる。 ②コミュニケーション障害の特徴を踏まえ、利用者とのコミュニケーション手段を選択し、円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	L03	介護におけるチームのコミュニケーション技術を習得することができる。					
	L04						
課題に対する フィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/ 参考図書	最新・介護福祉士養成講座 第5巻「コミュニケーション技術」第2版他 授業中に指示し、資料を配布する。※「コミュニケーション技術Ⅰ」で使用したテキストと同様。						
履修上の留意点 やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回45分とする。介護福祉士養成課程の学生のみ履修可。						
担当教員の実務 経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		
発表					
小テスト					
試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデン			60	

		ス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			
その他					
合 計				40	60
	回数	授業計画			
1	授業内容	ガイダンス(授業概要と進め方・成績評価の方法など) 介護におけるコミュニケーションとは① コミュニケーションの意義と目的【講義】			
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
2	授業内容	介護におけるコミュニケーションとは② コミュニケーションの基本【講義】			
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
3	授業内容	介護におけるコミュニケーションの役割【講義】			
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
4	授業内容	介護における生活支援とコミュニケーション① 介護技術とコミュニケーション【講義】			
	事前・事後学習	コミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
5	授業内容	介護における生活支援とコミュニケーション② 介護福祉士に求められるコミュニケーション【講義】			
	事前・事後学習	介護福祉士に求められるコミュニケーションについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
6	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション① 話を聴く技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	傾聴について調べておくこと。			
7	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション② 利用者の感情表現を察する技法、納得と同意を得る技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	バーバル・ノンバーバルコミュニケーションについて調べておくこと。			
8	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション③ 質問の技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	質問の技法についてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
9	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション④ 相談・助言・指導の技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	相談・助言・指導についてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
10	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑤ 利用者の意欲を引き出す技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	意欲を引き出すアプローチについてテキストを参照にしてノートにまとめること。			
11	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑥ 意向を調整する技法【講義と演習】			
	事前・事後学習	ファシリテートの意味について調べておくこと。			
12	授業内容	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション⑦ 複数の利用者がある場面でのコミュニケーション【講義と演習】			
	事前・事後学習	場面を想定してノートにまとめておくこと。			
13	授業内容	自己理解と他者理解① プロセスレコードとは【講義】			
	事前・事後学習	プロセスレコードを作成すること。提出すること。			
14	授業内容	自己理解と他者理解② プロセスレコードの記述方法【講義と演習】 〈プロセスレコードを考察して提出〉			
	事前・事後学習	プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。			
15	授業内容	自己理解と他者理解③ プロセスレコードの考察・自己評価【演習とまとめ】 〈プロセスレコードの評価を提出〉			
	事前・事後学習	プロセスレコードの発表を行う。準備をしておくこと。試験対策を行うこと。			